

授業改善推進中期プラン 数学〔中学校第1～3学年〕

昭島市立 昭和 中学校

学年等		項目	内容
令和2年度 第1学年	令和2年10月	学習に関する生徒の実態・課題	①概ね授業には意欲的に参加している。 ②家庭学習は、実施できている生徒と実施しない生徒の差がはっきりしている。 ③文章から関係式につなげることを苦手とする生徒が多い。 ④課題を図形やグラフなど具体的に表現するのが苦手とする生徒が多い。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	①主体的に課題に向かい、課題解決につなげる能力 ②家庭学習の習慣化 ③問題を読み、解答までにたどりつけるように説明する思考力、判断力、表現力
		具体的な授業改善の方策	①リフレクションカードへの記入により、「学習した内容の確認」「他の教科の関連」について触れさせる。日常生活における数学のつながりをもたせる。 ②数学が苦手な生徒においては、宿題の進め方等を授業で解説し、家庭学習を実施する生徒の増加につなげる。 ③どのように答えにたどりついたか流れを確認する授業を心がける。
	年度末	第1学年における生徒の達成度と第2学年に向けての課題	家庭学習を実施してくる生徒の割合が提出物の人数及び内容から増加してきていると判断できる。学習理解の点では今年度は学校におけるテストからの見方になるが、十分に理解しているとみられる生徒と今後の努力が必要とみられる生徒の2極化がみられる。課題として、生徒の理解を深めるように、生徒へ視覚で伝え、繰り返し学習できるよう授業の進め方を展開する。
令和3年度 第2学年	令和3年10月	学習に関する生徒の実態・課題	○授業には発問に関する様子や、問題に取り組む姿勢、わからない生徒へのアドバイスをする様子から、意欲的であるとみることができる。 ▲1学期中間や期末など、定期テストの分布から2山の傾向がみられる。学習時間の調査と比較すると、学習時間との相互関係があると考えられる。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	①事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能の育成。 ②数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力の育成。 ③問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度の育成。
		具体的な授業改善の方策	①公式や定式的な解法はなぜ使えるのかを考えさせる発問を工夫する。また、その単元で学ぶことが、日常生活でどのようなことと結びつくかを考える機会をもつ。 ②第1学年で学んだ内容から現在学んでいることとのつながりを考える発問を取り入れる。 ③振り返りシートの活用により継続的に学び、過程について学んでいる実感を持たせる。
	年度末	第2学年における生徒の達成度と第3学年に向けての課題	①②公式や定式的な解法について、時間をかけて行うように取り組んだ。その結果、振り返りシートのまとめにおいて、日常生活でどのような事と結びつくか等の考えをかく生徒の増加傾向が見られた。 ③生徒の振り返りシートの記入内容が、授業の感想からポイントを押さえた要点が書けるようになってきた。次年度はメタ認知的視点を意識して記載させたい。
令和4年度 第3学年	令和4年10月	学習に関する生徒の実態・課題	○授業中での発問の内容、問題に取り組む姿勢、生徒同士で学び合う様子から意欲的に取り組むことができると考えられる。 ▲1学期中間や期末など、定期テストの分布から2山の傾向がみられる。学習時間の調査と比較すると、学習時間との関連があると考えられる。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	①事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能の育成。 ②数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力の育成。 ③問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度の育成。
		具体的な授業改善の方策	①公式や定式的な解法はなぜ使えるのかを考えさせる発問を工夫する。また、その単元で学ぶことが、日常生活でどのようなことと結びつくかを考える機会をもつ。 ②第1学年で学んだ内容から現在学んでいることとのつながりを考える発問を取り入れる。 ③振り返りシートの活用により継続的に学び、過程について学んでいる実感を持たせる。
	年度末	中学校3年間のまとめ	

授業改善推進中期プラン 数学〔中学校第1～3学年〕

昭島市立 昭和 中学校

学年等	項目	内容
令和3年度 第1学年	学習に関する生徒の実態・課題	○概ね授業には意欲的に参加している。 ▲家庭学習時間は、実施できている生徒と実施しない生徒の差がはっきりしている。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	①解答までの思考過程(計算過程)を考えて説明する表現力の育成 ②家庭学習の定着 ③問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度の育成
	具体的な授業改善の方策	①どのように答えにたどりついたか流れを確認する発問を工夫する。 ②宿題の進め方等を授業で解説し、家庭学習を実施する生徒の増加につなげる。 ③解答までの思考過程(計算過程)を振り返れる「振り返りカード」の作成と活用を実践する。
	第1学年における生徒の達成度と第2学年に向けての課題	①グループ学習等で、答え合わせのみでなく理由も説明しながら教え合いができるようになってきた。 ②提出物状況から、家庭学習を実施する生徒の割合増加してきていると判断できる。学習理解の点では、定期テストの結果から、十分に理解しているとみられる生徒と今後の努力が必要とみられる生徒の二極化がみられる。今後の努力が必要とみられる生徒にむけた指導計画、また家庭学習用課題の実施などを行い家庭学習を行う生徒の増加と学習内容の定着につなげていく。 ③振り返りシートの記入内容で、授業の感想からポイントを押えた要点が書けるようになってきた。
令和4年度 第2学年	学習に関する生徒の実態・課題	○概ね授業には意欲的であり、基礎計算力はある。また、式が表している意味を読み取ることができる。 ▲家庭学習による学習内容の定着が弱い生徒が多い。 ▲例題を参考にした作業はできるが、根拠が説明できず、応用問題でつまづく生徒が多い。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	①家庭学習の定着を図る。 ②主体的に学び・考える能力の育成。 ③公式の意味や、解答までの思考過程(計算過程)を考えて説明できる表現力の育成。
	具体的な授業改善の方策	①毎時間の予習を授業用ノートに記入して、予習を活用した授業理解(授業展開)を図る。 ②宿題の進め方等を授業で解説し、家庭学習を実施する生徒の増加につなげる。 ③根拠を聞く発問を工夫する。また、振り返りシートに記入する授業の要点に対して、根拠を記入させる。
	第2学年における生徒の達成度と第3学年に向けての課題	
令和5年度 第3学年	学習に関する生徒の実態・課題	
	教科で身に付けさせたい資質・能力	
	具体的な授業改善の方策	
	中学校3年間のまとめ	

授業改善推進中期プラン 数学〔中学校第1～3学年〕

昭島市立昭和中学校

学年等	項目	内容
令和4年度 第1学年	令和4年10月 学習に関する生徒の実態・課題	○授業に意欲的に参加する生徒が多く、 ▲家庭学習の習慣がついていない生徒が目立つ ▲特に基礎コースの生徒は、基礎的な内容の習熟が低いことから考えがまとまらないことも多い。
	令和4年10月 教科で身に付けさせたい資質・能力	①家庭学習の習慣付け ②基礎的な計算力の向上 ③主体的に学び・考える能力の育成
	令和4年10月 具体的な授業改善の方策	①②ワーク、くじラーニングを活用して家庭学習の習慣づけを図る。また、継続することで計算力の向上につなげる。 ③各章終盤の「～の利用」の単元で、話し合いや教えあいを通して考えを伝え合う学習を行う。
	令和4年度末 第1学年における生徒の達成度と第2学年に向けての課題	
令和5年度 第2学年	令和5年10月 学習に関する生徒の実態・課題	
	令和5年10月 教科で身に付けさせたい資質・能力	
	令和5年10月 具体的な授業改善の方策	
	令和5年度末 第2学年における生徒の達成度と第3学年に向けての課題	
令和6年度 第3学年	令和6年10月 学習に関する生徒の実態・課題	
	令和6年10月 教科で身に付けさせたい資質・能力	
	令和6年10月 具体的な授業改善の方策	
	令和6年度末 中学校3年間のまとめ	